

(仮称)
宮前区の
「希望のシナリオ」
実現プロジェクト

お名前:



“みやまえ取り組み隊” 現地ツアー①



企画：キックオフミーティング2班

2019/9/21(土) 9:00~15:30 / 交流会 15:30~18:00

目的

- ・区内のいろいろな活動や団体の現場をみんなで訪れよう！
- ・現場の良さや課題をみんなで考えよう！

マップ



主催

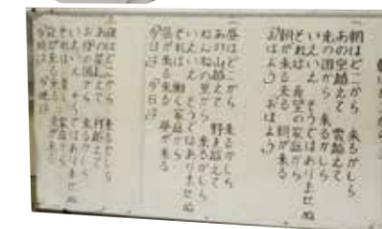
宮前区役所まちづくり推進部企画課 | コース担当：杉本光一郎

コース① 開催レポート

コース担当
杉本 光一郎



台風の発生で前日まで風雨や寒さを心配していましたが、おかげさまで、雨も降らず、うす曇りのハイキング日和。最も高低差があるコースを、予定どおり巡ることができました。



■「長尾住宅いきいきサロン」が開催される長尾住宅集会所に集合し、近くの長尾元泉公園で「長尾いきいき体操」を一緒に体験するところから現地ツアーがスタートしました。皆さん身体が柔らかく、手足を美しく曲げ伸ばしできるのに驚きながら、たっぷり30分、体をほぐした後、集会所に戻って、コーヒー・紅茶・抹茶のいずれが好きなものとお菓子で一服。室内でできるストレッチや、早口言葉、漢字の書き取り、間違い探しなどの脳トレ、懐かしい歌の合唱など、8年間毎週異なるメニューで続けている多彩な活動を実際に体験しました。



長尾住宅いきいきサロン
山本 俊子さん



ボランティアの方々





■地域包括支援センター（以下、「包括」といいます。）は、市から委託を受け、地域で暮らす高齢者の方々を、様々な面から総合的に支えるために設けられた公的な相談窓口です。「フレンド神木地域包括支援センター」では、まず、「包括」がどんな支援をしているかを学びました。質疑応答では、これまで「包括」という言葉も知らなかったとか、子どもからお年寄りまでを包括的に支援するところだと思っていたといった話も出されました。また、併設されている特別養護老人ホーム内のスペースの活用などについても意見交換を行いました。



■急な坂道や階段を上って市営高山団地集会所へ。毎週土曜日の午前10時半から、団地の住民有志が東急ストアさんの協力を得て、集会所内で実施している出張販売会「高山土曜ストア」の撤収作業を見学。お手伝いする暇がないほど、手際よく商品を箱に詰め、流れ作業で速やかに東急ストアの車に積み込む様子を見学した後、高山土曜ストアを育てる会の会長さんや自治会長さんから、販売会が実現するまでの経過や、近くのスーパーの閉店後、毎日の買い物に苦労している高齢者のために続けていきたいという熱い思いを伺いました。





▲とんもり谷戸

■初山の交差点のところに大きなビニールハウスが「**矢澤水耕農園**」です。すぐ近くにある「**とんもり谷戸**」にも立ち寄り、お父さんの代から、大切な地域の自然を守ってきた活動についても教えていただきました。自然豊かなこの土地で350年以上続く農家を継いで、代々の教えと最新の技術を組み合わせた**水耕栽培**を行っているハウスに入り、大切に育てている**トマト**を見せていただきながら、農業にける思いを伺いました。雨が予想されたため残念ながらパーベキューは中止となりましたが、ハウスの前で、**特製のトマトカレー**を囲む交流会を実施。参加者の活動情報の交換も行われ、笑顔の輪が広がりました。



矢澤水耕農園
矢澤 舜さん



交流会



▲矢澤さんのお母様がトマトカレーの説明をしてくださいました



▲特製トマトカレー



▲1日お疲れさまでした！



(6/6)
宮前区の
「希望のシナリオ」
実現プロジェクト

お名前:



“みやまえ取り組み隊” 現地ツアー②



企画：キックオフミーティング3班

2019/10/1 火 12:30~19:00

目的

- ・区内のいろいろな活動や団体の現場をみんなで訪れよう！
- ・現場の良さや課題をみんなで考えよう！

マップ



主催

宮前区役所まちづくり推進部企画課 | コース担当：高橋 瑛乃

コース② 開催レポート

コース担当
高橋 瑛乃



強い陽射しが降り注ぎ、熱中症が心配になるような晴天に恵まれました。予定のコースを巡り終え、作業を手伝って町内会館の外に出たときには、すっかり日が暮れていました。



■12時半に鷺沼駅前に集合し、9月14日に開催された「まちかどシェア」の会場にもなった「住まいと暮らしのコンシェルジュ」に立ち寄りしました。中には“ダンボール図書館”が設置されていて、店長さんからお話を伺うこともできました。

ダンボール図書館▶





■地域子育て支援センターは、0歳から小学校就学前の乳幼児とその保護者を対象にした施設です。鷺沼小学校に隣接する「**地域子育て支援センターさぎぬま**」には、親子でゆったりと過ごせる広いお部屋とお庭があります。「ぞうのへや」に入り、みんなで集まりがあるときにいつも歌っている「パンダうさぎコアラ」の**手遊びの歌**で迎えられ、施設の利用の仕方を教えてもらいました。利用している親子の迷惑にならないように2班に分かれて「ひよこのへや」「うさぎのへや」などを案内してもらい、子育て支援の現場を見学しました。



▲「パンダうさぎコアラ」を教わりました

■次に行った「**鷺沼ふれあい広場**」は、土橋小学校、フロントウオングサギぬま、さぎ沼なごみ保育園などとともに「**カッパーク鷺沼**」を構成する施設のひとつ。広場の下には、広大な鷺沼配水池や長沢浄水場から送られてくる水の自然流下エネルギーを使って水力発電を行っている鷺沼発電所、一部の水を配水する土橋ポンプ場があり、暮らしを支えていることを学んでから、広場を見学しました。広場の中央は芝生になっており、大人気の**じゃぶじゃぶ池**では親子連れが遊んでいて、隣の土橋小の授業でも使われている**ビオトープ**も案内してもらいました。



▲川崎市上下水道局の担当者が案内しました



◀じゃぶじゃぶ池



ビオトープ▶





ここわサロン
小久保 富久子さん



▲ハンドメイド作品



宮前まち倶楽部
社 麻里子さん



■宮前平駅前まで歩いて、「宮前平駅前スペースここわ」に到着。駅からほど近い建物の2階にあるこのサロンは、2007年4月に障がいをもつ人をはじめ、誰もが憩える場をめざして立ち上げた場所で、様々な人たちに支えられて続けてきたこれまでの経過や苦労したことなどを伺いました。体操、絵画、お菓子作り、手芸、パソコン、書道、コーラスなどの講座や講演会も開催される温かい雰囲気のあるサロンは、市民ボランティアが運営。100円の飲み物代は運営費に充当されており、思い思いのドリンクを飲みながら、誰もがほっと一息つけて気軽に立ち寄れるこの場所の居心地の良さを体感しました。

■さらに、ここわサロンでは、「まちかどシェア」の取組についてもお話を伺いました。鷺沼駅前や宮崎台駅近くの宮崎おちば公園などで開催してきた「まちかどマルシェ」を更に一歩進め、資源の宝庫である宮前区に点在するまちの資源を持ち寄り、楽しさを広げることで、「まちはみんなで一緒につくろう！」という思いを込めて「まちかどシェア」として、9月14日に新たにスタート。駅前で見つかった“ダンボール図書館”や、子育て中のママのハンドメイド作品を扱うマルシェなど、いろいろな企画をごちゃまぜにする面白さを語っていただきました。



土橋町内会
柴原 忠男さん



丁目によって束ね方も様々▶



■土橋町内会の様々な活動の拠点となっている「土橋会館」で、毎月1回行われている回覧物等の仕分け作業を体験しました。土橋町内会のエリアは土橋1丁目から7丁目までと広いので、世帯数も多く、仕分ける市政だよりや回覧物もかなりの量になります。広い町内会館内に整然と並べられた大量の市政だよりやチラシの仕分け作業を実際に手伝うことを通じて、地域住民の親睦や住みよい地域を目指した環境・安全安心・防災活動など、様々な地域活動を担っている町内会・自治会の活動の一端を知ることができました。



(仮称)
宮前区の
「希望のシナリオ」
実現プロジェクト

お名前:



“みやまえ取り組み隊” 現地ツアー③



企画：キックオフミーティング1班

2019/10/10(木) 8:45~18:00 / 交流会 18:00~19:00

目的

- ・区内のいろいろな活動や団体の現場をみんなで訪れよう！
- ・現場の良さや課題をみんなで考えよう！



主催

宮前区役所まちづくり推進部企画課 | コース担当：大木 かほ里

コース③ 開催レポート



歩距離も時間も6コース中最長で、8時45分に宮崎台駅前に集まってから、駅周辺を行ったり来たり。午前と午後で違う道を通って、このまちの多彩な景色を楽しみました。



■ 駅からすぐのところにある宮前老人福祉センターで2か月に1度開催されている「ひとりぐらし老人会食会」。会が始まる2時間近く前から準備が始まります。会場に机や椅子を並べ、ランチョンマットを置き、お弁当や果物、漬物などを配る作業を手伝うところから参加しました。お誕生日を祝い、プレゼントをもらって写真を撮り、ストレッチや脳トレで体を動かしたり、大きな声を出したりして盛り上がり場が和んでから、食事会が始まりました。宮前中央地区社会福祉協議会の方々が作ったアツアツの汁物に笑顔が広がりました。



▲スタッフの皆様が笑顔で迎えてくれます





■川崎市青少年の家にある「おぼけ灯籠」は、第1回川崎市地域文化財のひとつです。東部62部隊が赤坂から移転した際、一緒に持って来た灯籠で、青少年の家は将校集会所があった場所とのこと。夜な夜な歩き回ったという逸話の残る巨大な灯籠の前で、「みやまえ・東部62部隊を語り継ぐ会」の方から、この灯籠の由来や、この地に東部62部隊があったことなどを教えていただき、地域の歴史を現代に伝える活動についてもお話を伺いました。周辺の小道に今も複数残っている「陸軍軍用地境界標」にも案内していただきました。



みやまえ・東部62部隊を語り継ぐ会 山田 譲さん



山本 太三雄さん



川崎市青少年の家 島崎さん

■おぼけ灯籠の見学で立ち寄った「川崎市青少年の家」は、ホールや研修室、音楽室やキャンプファイヤーや飯盒炊飯ができる園庭を備えており、団体での宿泊体験を通じて社会性を身に付けられるよう、宿泊設備のある社会教育施設です。施設の利用方法や、幼児からシニアまでを対象とした多彩な主催事業について、簡単な説明を受けました。



宮前平地域包括支援センター 中尾 智子さん

■青少年の家の研修室で、「宮前平地域包括支援センター」の方から、センターではどんな支援をしているか、丁寧に説明していただきました。福祉や高齢者への支援について、これまであまり深く考える機会がなかった人たちも、福祉を取り巻く様々な課題に目を向けるきっかけになったようで、民生委員児童委員、社会福祉協議会、区役所など、地域の福祉に関わる人たちがどのように関わっているかなど、地域福祉の現状や仕組みについて次々と質問が出されました。少し歩いて、センターにも立ち寄り、いつもの相談スペースをひと工夫して、体を動かしたりや懐かしい歌を歌ったりもするというお話を伺いました。



ツアー中に見つけました！



▲「陸軍」と刻まれた石標



◀宮前平地域包括支援センターから次の訪問先、あくろっこ農園に向かう途中に「陸軍軍用地境界標」を紹介していただきました



みやまえ農の応援隊
荒川 洋子さん



梅原農園
梅原 正寿さん



▲JA セレサ川崎の方々 (左・右)

■あぐりっこ農園宮前平（梅原農園）では、まず、JA セレサ川崎の方から、手ぶらで気軽に野菜作りが楽しめる初心者でも安心の指導付き体験型農園「あぐりっこ農園」の仕組みを説明。畑は1区画15㎡に仕切られ、様々な野菜の収穫が楽しめるよう、どの区画もニンジンやネギなどが同じように植えられていました。宮前平駅から徒歩7分のこの地で、耕作指導を行いながら体験型農園を運営している梅原農園の方や、宮前区の農や緑を守り、農家を応援したいという思いで活動している「みやまえ農の応援隊」の方からお話を伺いました。



▲みやまえ農の応援隊の区画



◀道具一式は現場で借りられるので、手ぶらで参加できる便利なシステム

梅原農園の直売所では、旬の野菜が購入できる



■宮崎台駅前を通り、すきっぷドレミ園へ。子育て支援の取組と子ども食堂についてお話を伺っていると、日も暮れてきて、「みやざきだいこども食堂」に少しずつ子どもたちが集まってきました。私たちも、交流会として、こども食堂を利用する子どもや家族と一緒に、豆のカレーやカボチャのサラダなどをいただきました。一日歩いた軽い疲れも心地よく、会話も弾む楽しい時間を過ごしました。食後には、環境を意識し、食べ終わったお皿を布切れで拭いてから洗うことも教えてもらい、手慣れた子どもたちを見習って、私たちもやってみました。



すきっぷドレミ園
上田 祐子さん



この日の献立は、豆のカレーやカボチャのサラダと味噌汁でした▶



コース3のメンバー（一部）